

2030 年ビジョン

～私たちがめざす未来のパルライン～



pal*system
株式会社

パルライン

2030年ビジョン策定に寄せて

社員の皆さん。我が社の長期経営計画となる2030年ビジョンはコロナウイルス感染拡大という深刻な社会的危機のただ中で策定されることになりました。長期ビジョンといっても事業の最前線を支え続ける皆さんの日々のお仕事は困難に満ち、時の流れもあっという間と思います。しかしこうした皆さんの苦勞と我慢に対する組合員の感謝と信頼は日に日に高まっています。そして、こうした日々の信頼の積み重ねこそ私たちの輝く未来に繋がるであろうことを私は確信しています。

私たちの長期ビジョンは一朝一夕には実現しないかもしれませんが。しかし、人は長い山道を辿る時「遠くに見えるあの山の頂に行こう」と強く願うことで足元の苦しい一步を踏み出せるものです。ビジョンは共に歩む仲間と仰ぎ見る大きな山のようなもの、そしてその頂にはきっと素晴らしい景色が待っているはずです。さあ、皆さん。力を合わせ力強くその第一歩を踏み出そうではありませんか。

株式会社パルライン 代表取締役社長

太田 賜嗣夫



パルシステムグループの理念



心豊かなくらしと共生の社会を創ります

パルラインの経営理念



私たちは“物流”と“サービス”をとおして、組合員、生協、地域社会に貢献し、一人ひとりがこころ豊かにくらせる社会をつくります。



パルラインの経営基本方針

私たちは、人命尊重・安全を第一に仕事をします。

私たちは、常に挑戦する心を持ち、仕事に取り組みます。

私たちは、社員と家族が夢と誇りを持てる企業をめざします。

「ビジョンとは何？」

ビジョンとは、上記の理念や方針を基礎とし、将来的にめざす、私たちの「未来像」のことです。「現在を積み重ねていった 10 年後の未来に、どのようになりたいか?」「その未来でパルラインのめざすべき状態はどのようなものか」を示しています。

社員一人ひとりが「未来のパルラインのあるべき状態」を描き、理解し、目指していく場所。それこそが「2030 年ビジョン」です！

1. 高い物流品質を実現し、 パルシステム事業全体を牽引します。

- ・生協や他の物流会社の範となる高品質なサービスを提供するプロフェッショナル集団となります。
- ・物流システムの最新の知見を常に蓄積し、新時代の物流を牽引します。
- ・物流会社としての専門性と組織的能力を更に高め、生協事業の効率的運営に貢献します。
- ・生協人としてのマインドと高い職務スキルを兼ね備えた人材を育成し、グループの発展に寄与します。



「解説」

ビジョン「I」は「物流会社として専門性を高めよう」ということを表現しています。

プロフェッショナル集団とは、組合員に寄り添った責任ある対応、地域の安全に貢献する模範運転ができる、また地域に受け入れられる安定した配送技術を持つ配送担当者を意味します。新時代の物流を牽引という点では、既に当社では、ハ王子センターのシャトルシステムや熊谷センターでの最新鋭の集品システムなど、生協業界内での先端技術の導入に積極的に取り組んでいます。単純に省人化を進めるだけでなく、それを有効活用するための人材育成も同時に進める必要があると考えています。物流会社の専門性については、当社は、パルシステムの物流全般を担う物流に特化した子会社で、まさにパルシステムの物流を専門的に担っています。安定供給を継続的に実現するため、当社は物流全体を捉え、最新鋭システムの研究などを通して効率化や新手法の導入などを提案し、パルシステムグループ全体に貢献していきます。

2. 総合物流会社としての力量を高め、 パルシステム事業を主体的に担う会社となります。

- ・受託業務を拡大し、総合物流会社としてのウイングを広げます。
- ・生協と一体となった事業運営を進め、パルシステム事業の発展に貢献します。
- ・連合会、会員生協等との連携を深め、生協の事業と運動に貢献する人材ネットワークを構築します。



「解説」

ビジョン「2」は「受託業務の拡大と人材育成を進めよう」ということを表現しています。

私たちは、パルシステムの物流の一部ではなく、セット、基幹物流、生活物流など、物流全体を総合的に担っています。全体を見ているからこそ可能な改善提案などを積極的に行っていきます。さらに新しい業務にチャレンジし、受託業務を拡大することで、パルシステムグループへの貢献度を高めていきます。東金営業所のように生協と一体となった事業運営を進めることにより、生協事業への貢献に加え、これまでにない職種の人員配置やセンター内業務効率化を実現していきます。またそれらを経験する社員が増えることで、生協の事業と運動の両輪を学び、活躍の幅を広げる社員を増やしていきます。

3. 多様な人々がつながり、 共に成長していく過程を通じて、 協同の価値観を職場で実現します。

- ・社会包摂就労の支援を通じ、多様な人々の雇用機会を創出し、職場における協同組合価値の実現を目指します。
- ・職種を拡大して社員のキャリアアップの機会を広げ、誰もが安心して働き続けられる職場を創ります。



「解説」

ビジョン③は「社会包摂就労支援を進めよう」ということを表現しています。

ここで掲げた職場における協同組合の価値とは、自助と互助（連帯）、平等、公正と言った部分を指します。自分を知り、前へ進むとする多様な人々を広く受け入れ、それぞれの立場を尊重し、誰もが活躍の機会を得られる職場を目指します。また誰もが安心して働き続けられる職場を目指しています。例えばドライバー職社員は、体力的な不安から定年までのキャリアを描きづらい面があります。女性社員の活躍も課題の一つです。事業領域や職種の拡大を実現し、多様な人々が広く長く活躍できる環境を整えていくことを目指しています。

社会包摂就労支援については、社員のみなさんから広く賛同の声をいただいています。専門の指導者の育成や支援体制の確立を目指して取り組んでいきます。

ビジョン策定の道のり

年	月	主な出来事
2018	11	中期経営計画策定のため、若年層幹部社員を中心に取り組みを開始。
2019	3	中長期経営計画として役員へ提案。
	4	ビジョンの考え方を整理し、改めて2030年ビジョンを策定する事を決定。
	8	2030年ビジョン検討委員会を開催（翌年2月まで計6回）。一次案策定。
	12	全社員参加の「職場ミーティング」を開催。社員の意見は、合計1,947件。
2020	2	社員の意見をもとに二次案策定。第35期第5回取締役会で特別報告として報告。
	3	最終案を完成。
	4	第35期第6回取締役会にて正式承認。



「職場ミーティング」

ビジョン策定で検討委員会が最も大切に考えたのは「全社員が参加する」ことです。ビジョンは描いただけでは、実現できません。全社員が、策定に参加することで「目指すべき場所」を明確に感じながらそこへ向かっていけると考えました。

ここでは、社員の皆さんから出された貴重な意見を少しだけですが、紹介します。

- ・自動化、省人化、IT化を積極的に推進すべき。
- ・パルシステムの商品知識を担当がしっかり持つことがプロフェッショナルとして大切。
- ・人材育成や人材登用は絶対に必要。パルシステムを語る管理者・社員の育成が急務。
- ・総合物流会社としての専門性を追求すべき。斬新な発想を求めるべき。
- ・人材交流を推進すべき。人数だけでなく交流の幅も広げ、視野の広い人材を育成すべき。
- ・受託業務拡大を推進すべき。女性が活躍できる職場を目指したい。
- ・多種多様な人材雇用は価値観が広がりサービス向上に繋がると思う。ただし専門的な指導者が必要だと思う。

2030 年ビジョンを実現するためには、さまざまな「取り組むべき課題」があります。

この取り組むべき課題は、ビジョンの内容を具体化したものとも言えます。今後の中期、単年度の事業計画の中に反映させていきます。



<テーマ別取り組むべき課題>

1. 高い物流品質を実現し、パルシステム事業全体を牽引します。

- (1) 最新の知見の絶え間ない蓄積。自動化や省人化設備等の高度な新時代の物流システムの操業能力の獲得。
- (2) パルシステム事業の印刷・丁合業務、セット業務、基幹物流、生活物流のすべてに関わる総合物流会社として、パルシステムの物流全体の最適化に向けた改善提案を行えるプロ集団への成長。
- (3) 物流担当者としての職務スキルに加え、パルシステムの商品の価値、生協の価値を学び、組合員や地域に寄り添い、生協運動やパルシステムを語ることができる高い志を持った社員の育成。
- (4) 多様な立場の人を束ね、同じ目標を追求していける高度なマネジメントスキルを備えた人材の現場での育成と、グループの発展への寄与。
- (5) 社員の目指すべき姿、各職務のスキルの整理と、必要な教育制度、評価制度の構築。

2. 総合物流会社としての力量を高め、パルシステム事業を主体的に担う会社となります。

- (1) 基幹物流部門の拡充によるパルシステムの物流への貢献度の向上と、ドライバー職の活躍の場の拡大。
- (2) 食品加工分野をはじめとする新たな業務領域の開拓への引き続きの挑戦と、社員の多様な能力開発とキャリアアップの機会の拡大。
- (3) 生協と一体となったセンター運営を目指した包括的な業務受託の実現と生協事業への主体的な貢献。
- (4) パルシステムグループ内の積極的な人事交流の推進による、新たな事業や事業領域の拡大を可能とする人材の育成と人的ネットワークの拡大。

＜テーマ別取り組むべき課題＞

3. 多様な人々がつながり、共に成長していく過程を通じて、協同の価値観を職場で実現します。

- (1) 障がい者、生活困窮者、長期無業者など、様々な人々の雇用を積極的に進めるための社会参加プログラムづくりと地域行政、地域 NPO などとの連携強化。
- (2) 多様な人材の指導を担当する社員への支援の制度化を通じた社会包摂就労のサポート体制の整備および強化。
- (3) 外国人雇用に関する調査、研究と、互惠・共栄の精神を大切にした雇用を実現。
- (4) 事業領域を拡大して社員に幅広いキャリア形成と成長の機会の提供。年齢や性別にかかわらず、安心して生き活きと働き続けられる職場づくり。

「事務局より」

約一年半の期間をかけ、たくさんの意見と真剣な議論を積み重ねてパルラインの 2030 年ビジョンが完成しました。

2019 年 12 月に実施した「職場ミーティング」では、社員の皆さんから 2,000 件近い意見やアイデアが寄せられ、委員一同、社員の皆さんの日々の業務に取り組む真剣さ、パルラインの将来に寄せる期待の大きさを改めて痛感したことが強く印象に残っています。

日々の業務を繰り返しながら、会社全体でどこに向かって進んで行くのか。その時の指針となるものがこの 2030 年ビジョンです。今後は、毎年度の事業計画にこのビジョンを反映させ、実現に向かって進んでいきます。ぜひ皆で力を合わせていきましょう。

2030 年ビジョン検討委員会 事務局長

株式会社パルライン 取締役 管理本部長

堀田澤 義人

pal*system
株式会社

パルライン